

『江南市保育所等の配置に関する基本方針(案)』および
『江南市立あずま保育園・中央保育園の統合整備について(案)』に関するパブリックコメントの結果について

- ◆意見の募集期間 令和5年2月7日(火)から
3月8日(水)まで
- ◆意見を提出された方 8人
- ◆意見の件数 13件

- ◆意見の概要、市の考え方をまとめたもの
(※意見の概要につきましては、取りまとめ及び要約をしています。)

『江南市保育所等の配置に関する基本方針(案)』

【基本方針について】

意見の概要	江南市は大口町のように工場等が多くないため、税収が豊かでないことが問題。いくら頭をひねってみても税収不足は続くでしょう。大きいことはよくない。建物の縮小や施設合理化を進めるべき。基本方針は方針でよいが税金を上げることは大反対。
市の考え方	本市の財政は、人口減少と少子高齢化等、人口構造の変化の影響でさらに厳しい状況となることが見込まれており、将来の更新費用の増加や人口減少等による影響を見据え、公共施設の総延床面積とライフサイクルコストを縮減する必要があります。 しかし、施設の統合や複合化は、単に財政負担の軽減のみを目的とするのではなく、行政サービスの質の低下に繋がらないよう、人口構造の変化や、それに伴う市民ニーズの変化への対応策、地域コミュニティ維持のための方策を組み込み、利便性が向上するような施設づくりを図っていきます。

【統合に伴う保育所の配置の検討について】

意見の概要	20年、30年前と違って、働く女性の基本属性が変わってきています。職種、就業時間、通勤手段のデータを取り、保育園の配置や定員と見直すことで、江南市が子育てしやすい場所になる可能性があると思う。また、定員充足率が50%以下の保育園を統合すれば、たくさん友達ができ有効かと思う。 統合すると保育園に行くこともままならない地域ができる。計画を早急に進めず、市民に広く知らせ、今後の江南市が子育てに
-------	--

	<p>希望が持てるように少子化をくい止め人口が増え、税収が望まれる明石市のように変更してほしい。</p>
市の考え方	<p>本市では、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保方策や実施時期、業務の円滑な実施に関する内容を定めた計画「江南市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、5年ごとに見直しながら計画的に子育て施策を推進しています。令和5年度以降、「第3期江南市子ども・子育て支援事業計画」の策定に向け、子育て家庭を対象としたアンケートを実施し、保護者の就労状況や園児の送迎手段などについて調査することで、必要とされるサービス、施設や、人材の確保方策を把握し、計画に盛り込みたいと考えています。</p> <p>市立保育所の統合・民営化は、各施設の老朽化状況等を勘案し、優先順位を定め実施していくため、その間に推計人口や民間教育・保育施設の立地状況等に変動が生じる可能性があります。各地区の市立保育所の配置方針は、上位計画等の定期的な見直しの時期に合わせ、その状況に応じた最適な配置を検討し、統合や民営化の対象とする保育所や、施設数を適宜見直します。</p>

【統合・民営化の必要性について】

意見の概要	<p>基本方針にある施設・コスト・ニーズの課題が、なぜ市立保育所を減らし、民営化を促進していくという結論に結び付くのか。コストの不足額 304 億円の内訳がよくわからない。現在と同じ規模の施設を更新・改修することを前提でこの数値が出ているのか、それとも施設減少・小規模化や、国からの交付金を見込んで算定しているのか？</p> <p>当初この案は、総務部財政課が立案したもので、市の財政負担を軽減することを目的とするものと見受けられる。現状の状況把握、識者や住民の声の反映が見えてこない。</p>
市の考え方	<p>「江南市公共施設等総合管理計画」策定時の試算では、公共施設及びインフラ施設について、損傷が軽微である早期段階に予防的な修繕等を実施することで機能の保持・回復を図る管理手法である予防保全型維持管理を実施することにより、費用の縮減及び平準化、施設の長寿命化を図っても、現在所有する公共施設等の規模を維持したままでは、公共施設等の改修や更新に係る費用の財源不足額は 304.4 億円にのぼります。現在と同程度の財源が確保されたとしても、費用の 69%程度しか賄えないことが明らかとなっており、平成 29 年度に策定した「江南市公共施設再配置計画」では、老朽化した保育所は、他の施設と統合・複合化しながら</p>

	<p>ら、保育サービスの充実や送迎のための自家用車の駐車スペースの確保など新たなニーズへの対応を図ることとしています。詳しくは「江南市公共施設等総合管理計画」・「江南市公共施設再配置計画」をご参照ください。</p> <p>また、本市の公共施設が多く建設された1960年代から1970年代は、公共施設の建設に係る国や県の補助メニューが多くありましたが、現在は多くが廃止されており、現行の補助メニューについても、今後長期に渡り存続するとは限らないため、国などからの補助金は試算には盛り込んでいませんが、実際の更新・改修の際には、これらの財源を最大限活用し実施していきます。</p> <p>公共施設等総合管理計画や公共施設再配置計画などの公共施設マネジメントに関する計画は、主として財政課が策定作業を行っていますが、こども政策課や保育課をはじめとした各施設所管課と協議を重ねながら、有識者や公募市民で構成する検討委員会、パブリックコメント等の市民参加手続を経て、単に財政負担の軽減のみを目的とするのではなく、人口構造の変化や、それに伴う市民ニーズの変化への対応策、地域コミュニティ維持のための方策を組み込み、施設総量やコストの縮減が、行政サービスの質の低下に繋がらないよう市でまとめたものです。本方針案や江南市立あずま保育園・中央保育園の統合整備案についても、同様に財政課と施設所管課との協議や外部委員を含む組織の意見を聴き、まとめたものについてパブリックコメントを実施しているところです。</p>
--	--

【人員不足の解消について】

<p>意見の概要</p>	<p>市の保育士を増員することは困難とあっさり言っているが、だからといって民間に丸投げして解決する問題ではないのでは。通園バス置き去り事故や虐待など保育現場での人員不足が要因となっている事件をよく耳にする昨今、この基本方針のスタンスはとても不安。</p> <p>増加が想定される3歳未満児保育に対応するには保育士増員は不可欠。その点を市民にきちんと説明し、具体的に財源がどれだけ必要なのか提示してほしい。そのうえで基本的にすべての保育を市が負担し、市の責任で行っていくことを望む。</p>
<p>市の考え方</p>	<p>市の保育所では慢性的な保育士不足に悩まされていることから、民営化の対象となった市立保育所に勤務していた保育士を、産前・産後休暇や育児休業等の代替職員として市内各保育所に配属することなどで、市立保育所の保育士不足の解消に繋がりたいと</p>

	<p>考えています。</p> <p>民間事業者には、柔軟な勤務形態や人員配置、事務のデジタル化による負担軽減など、保育士確保に関し、公立保育所に比べ有利であると考えられる点があります。また、本市で勤務を希望する保育士にとっての選択肢の増加にも繋がり、多様な働き方への対応にも資するものと考えています。</p>
--	--

【過去の方針・計画等との整合性について】

意見の概要	<p>もともと保育園の建替えは定員に対して現在 50%前後の入所率の保育園について考えられてきたはず。そして、これまで（令和 4 年）の計画では、指定管理にした保育園から民営化としていた。江南市が 10 万人都市を目指し地域に保育園を建設した歴史があり、江南市での子育てを推奨してきたのならもう少し丁寧な計画を立案してほしい。</p>
市の考え方	<p>平成 24 年 12 月に発生した笹子トンネル事故を契機として、社会インフラの老朽化対策が官民間問わず喫緊の課題として強く認識されるようになり、平成 26 年度、総務省から地方公共団体に対し、早急に公共施設の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現するよう要請がありました。</p> <p>本市でも、平成 27 年度、市の公共施設等の全体像を明らかにした上で、改めてこれまでの公共施設のあり方、公共施設に対する考え方を見直し、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化を実施していくため、「江南市公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設マネジメントに取り組んできました。</p> <p>また、平成 29 年度に公共施設の長期的な視点に立った計画的かつ効果的な再配置を実現させるため、「江南市公共施設再配置計画」を策定し、老朽化した保育所は、他の施設と統合・複合化しながら、保育サービスの充実や送迎のための自家用車の駐車スペースの確保など新たなニーズへの対応を図る方針とされました。</p> <p>第 8 次行政改革大綱「江南市リノベーションビジョン」（平成 30 年度～令和 4 年度）において検討してきた指定管理園の民営化は、令和元年度に「人口減少、市民ニーズ及び公共施設の再配置など保育園運営を見直す機会に、再度、民営化等について検討する」こととされたため、今後、本方針に基づき、各地区の状況に応じた最適な配置を検討し、他の市立保育所と区別せず、統合や民営化の対象とするかなどを決定していきます。</p>

【保育所の規模等の検討組織について】

意見の概要	保育所を新設する場合、建設委員会を作って、地域や利用状況に応じた規模を検討していくことが望ましい。建設委員会には、利用者、行政、識者などで税金の有効利用を考えながら進めていくようにできたらいいことはない。
市の考え方	本市では、保育所の利用定員の設定など、子ども・子育て支援に関する施策の推進について調査審議するため、学識経験者や、関係団体の代表者、公募市民等により構成する子ども・子育て会議を組織しています。本方針案や江南市立あずま保育園・中央保育園の統合整備案についても、子ども・子育て会議の意見を聞いた上でパブリックコメントを実施しているものです。

『江南市立あずま保育園・中央保育園の統合整備について(案)』

【統合に伴う規模の拡大について】

<p>意見の概要</p>	<p>ヨーロッパでは幼児の保育は少人数で家庭的な雰囲気育てるということが重要視されている。200名を超す園児数の大きな園は危険が多い。災害時の職員の負担も重い。江南市でさえ、200人規模の保育園運営の経験がないのに、まさかの民間委託。</p> <p>静岡の園バス置き去り事故では、園児の登園の把握がきちんとなされず、子どもの命が失われた。セキュリティライブカメラなどICTも上手に活用すれば良いとは思いますが、最後はやはり人である。子どもの人数が多くなればなるほど、一人ひとりの子どもの把握ができにくいのではないかと危惧している。保育所保育指針でも一人ひとりを大切にみていく事が求められている。</p> <p>多くの保育士達が今の配置基準では十分な保育ができないと言っているのをどう見るのか？</p>
<p>市の考え方</p>	<p>保育所においては、4・5歳児30人に1人、3歳児20人に1人、1・2歳児では6人に1人、0歳児は3人に1人の保育士を配置しなければならないこととされており、この基準は、園児の総数にかかわらず一律に適用されるものです。</p> <p>国には、基準より保育士を増やした保育所に対し運営費を加算し支援する方針もあり、整備・運営事業者を公募する際には、運営する保育所等の規模や施設数、保育士の配置などの実績を確認し、十分な保育の質が確保されるよう事業者を選定していきます。</p>

【送迎について】

<p>意見の概要</p>	<p>保育園に預けている保護者は全員が車送迎ではなく、車を持たない家庭もあるかと思う。あずまと中央ではかなり範囲も広がり、現在の図書館の場所は中央からはかなり距離があります。車を持たない家庭の送迎からいっても、安易な統合には反対。</p> <p>電車の利用の際に駅から比較的近い中央保育園は非常に便利で、通勤で電車を利用されている方々が中央保育園に子供を入園させていたと思う。駐車場が少ない等の問題が解決されるのは良いが、保育園が駅から遠くなってしまえば、せっかく特急が止まる江南でも、今後お子さんを持つ若い世帯にとって、子育てのメリットがない。そうするとさらに市内人口の高齢化は進むのでは？若い世帯を呼び込む子育て支援に、保育所のロケーションを挙げたほうが良いと思う。</p>
--------------	---

	<p>駅の西側には古知野南保育園があるが、東側に無くなると、電車利用の世帯はどうしたらよいのか？できれば中央保育園の場所は変えず、建て替え、駐車場の確保ができないか考えてほしい。もっと駅近くでもよいくらいである。</p>
市の考え方	<p>令和2年12月に行なった調査では、江南市立の保育園に通園する園児の83%が自動車により送迎されており、駅から近い中央保育園も74%にのぼっています。</p> <p>自宅から自動車で保育園に園児を送り届け、そのまま自動車で駅に向かい電車に乗り換え通勤する保護者の数はそれほど多いものと考えてはいたませんが、今後、第3期江南市子ども・子育て支援事業計画の策定に当たり、保護者アンケートを実施する際には、園児の送迎手段などについて詳しく調査し、今後の保育園の配置の検討に活用していきたいと考えています。</p>

【過去の方針・計画等と整合性について】

意見の概要	<p>平成19年の江南市公立保育園民営化ガイドラインには、民営化により休日保育の実施、0歳児保育の拡大、移行後における保護者・事業者・市の三者による話合いの場の設置を図ると謳っているが、江南市保育所等の配置に関する基本方針（案）には、これらのことについて記載がなく、かなり後退している。休日保育・0歳児保育ともにニーズが高く、また、移行後における保護者・事業者・市の三者による話合いの場の設置については、今回が民営化の初回であり、一定期間市が参加し、今後の民営化に資すべきである。</p>
市の考え方	<p>平成19年度策定の「江南市公立保育園民営化ガイドライン」は、市の保育所に関し、指定管理者制度（公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業・財団法人・NPO法人・市民グループなど法人その他の団体に包括的に代行させる制度）の導入を図る際に策定したものです。</p> <p>今回市が検討しているのは、指定管理者制度を活用するのではなく、民間事業者が主体となって保育所の整備・運営を行うものであり、通常保育以外の事業の実施や、保護者との関わり方に関しては、基本方針において、事業者の創意工夫、ノウハウにより特色ある質の高い保育サービスの提供を求めることとしています。</p> <p>なお、市立保育所と民間事業者との協議の場を設けるなど、連絡・連携を密にし、研修や交流等を通じて情報交換し、学び合う機会を設けることで、地区・市全体の保育サービスの質の向上を図るための仕組みの構築をしていくこととしています。</p>

【民営化後の保育内容の継続について】

意見の概要	今ある公立保育園の障害児保育、0歳児保育、アレルギー対応など、人手とコストのかかる保育を民間でやってくれるか確約がとれない。中央保育園の保護者は、一時保育が利用できなくなり困る。待機だったが4月から入園できることになり喜んでいましたが、今は悲しい、などと利用者の方から聞いた。この声を行政は受け止めてほしい。
市の考え方	『江南市保育所等の配置に関する基本方針(案)』では、市立保育所においては、民間教育・保育施設では実施が困難な特別支援保育や、保育の需要が低く、民間事業者の参入が見込まれない地区における保育などへの対応を担う方針としています。ただし、市立保育所の統合等に伴い民営化を図る場合は、対象となった市立保育所で特別支援保育等を利用する児童が、民営化後の施設でも継続して利用可能となるよう、整備・運営事業者を公募する際には、特別支援保育等を実施することを応募要件とする予定です。

【保育所統廃合の対象施設について】

意見の概要	この計画は、パブリックコメントもなく、突如、総務部財政課が提案。旧図書館の跡地を中心にコンパスで「クルクル」と円を書いたら、あずま保育園と中央保育園が入った、みたいな安易な発想にしか考えられません。先に建替えの必要な保育園があるはず。園そのものは18園の中で新しい方である。
市の考え方	市立保育所18園のうち17園が既に40年を超えています。中には50年を超える施設もあり、全体的に老朽化が進行している状況です（あずま保育園：46年、中央保育園：47年）。 市立保育所の統合・民営化は、各施設の老朽化状況等を勘案し、優先順位を定め実施していくこととしており、各地区の状況に応じた最適な配置を検討し、具体的な整備案をとりまとめましたら、順次パブリックコメント等を実施し広くご意見を聴いていきます。

【統合・民営化の必要性について】

意見の概要	公共施設の再配置計画でスリムな自治体を目指すはずが、市長の一声で3倍もの広さの新図書館建設。しかも、民間の言いなりで、基金の底もついたほど。お金を使いすぎたことは今更仕方ないことだが、だからと言って、コスト削減に結びつけ、なくてはならない保育園を民間へ放り出してほしくない。
-------	---

市の考え方	本市では、平成 27 年度、市の公共施設等の全体像を明らかにした上で、改めてそれまでの公共施設のあり方、公共施設に対する考え方を見直し、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化を実施していくため、「江南市公共施設等総合管理計画」を策定し、保育所の今後の方針として、統廃合や他の施設との複合化、民間事業者との連携や民間活力の導入を推進することと定めています。その後の新図書館建設決定が、あずま保育園・中央保育園の統合・民営化の原因となったわけではありません。
-------	---

【他の施設案について】

意見の概要	図書館の跡地に何かを造らなければということだが、第 2 の子育て支援センター、わかくさ園として施設を利用するのもよいと思います。子育てに不安を持っている人はたくさんいます。支援センターは 2 か所あれば十分に対応できるのではないか。
市の考え方	現在、本市には、子育て支援センターは 3 か所あり、また、江南市老人福祉センターの建替えに伴い建設する複合施設内にも子育て支援機能を有する諸室を計画しています。